

令和4年度
事業報告書

令和4年 4月 1日から
令和5年 3月31日まで



公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

目次

事業概況及び課題等	1
I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業	2
1 学術奨励事業	
(1) 木原記念財団学術賞	
2 知識普及啓発事業	
(1) 木原記念こども科学賞	
3 情報発信	
II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業	6
1 共同研究開発事業等	
(1) 共同研究開発の創出・推進	
(2) Go-tech 事業	
2 研究開発等助成事業	
(1) LIP, 横浜トライアル助成事業	
(2) 小児疾患研究助成事業（クラウドファンディング）	
III 生命科学の応用による産業活性化の支援事業	8
1 事業化支援	
(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP, 横浜）の推進	
(2) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP, 横浜）デジタルヘルスケア事業の推進	
(3) 市内ベンチャー中小企業のニーズ・シーズ紹介	
(4) 「コネクト」メンタリングプログラム運営支援	
(5) 個別支援等	
2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）	
(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営	
(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営	
3 出展支援・広報	
(1) BioJapan 2022 出展支援	
4 クラスター連携事業	
(1) クラスター連携	

IV	生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営	18
1	横浜バイオ産業センター（YBIC）事業	
V	理事会・評議員会・監査.....	19
1	理事会	
2	評議員会	
3	監査	
VI	事務局.....	19

事業概況及び課題等

令和4年度においては、横浜市との協約等に基づき、「健康・医療」分野を中心に定款に定める4つの事業に取り組みました。

「学術振興及び知識普及啓発」では、第31回木原記念財団学術賞の選考や第30回受賞者の記念講演会を開催しました。また、30周年を迎えた木原記念こども科学賞では例年の表彰に加え、神奈川県内の小学生を対象に専門家による生きものに関する記念講演会を開催しました。

「共同研究開発等の企画及び推進」では、神奈川県内の中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の共同研究開発の創出・推進を支援するとともに、横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）のトライアル助成事業においては、横浜市内の企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向けた支援を行いました。

「産業活性化の支援」では、LIP. 横浜の事業において、ヘルスケアに関連するビジネスの事業化への支援や中小企業・スタートアップ等への支援などを横浜市と共に行いました。また、横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークなどのネットワークを活かし、バイオビジネスのマッチングセミナー等を企画開催するとともに、バイोजパンへの出展支援などを行いました。

「産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営」では、バイオ関連企業や研究機関を支援する賃貸型研究施設である横浜バイオ産業センター（YBIC）について、消毒用アルコール設置などのコロナウイルス対策を引き続き図るとともに、経年劣化に対応して空調機モーターを交換するなど、良好な研究環境を提供しました。

理事会、評議員会、監査や事務局の運営においては、新型コロナウイルス感染症による事業活動への影響を最小限に抑えるため、オンラインの活用や、テレワーク等を推進しながら、各種業務に取り組みました。

今後も生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与できるよう、中・長期的な視点に立って事業の改善や財政基盤の安定化に取り組み、持続可能な財団経営を目指してまいります。

I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(事業費支出 9百万円)

1 学術奨励事業

(1) 木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

ア 第31回木原記念財団学術賞の選考

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている研究者（満50歳以下）を表彰するため、「第31回木原記念財団学術賞」を実施し、受賞者を決定しました。

学術賞の選考にあたっては、推薦募集の受付けや選考委員会のオンラインでの開催、選考資料をデータ配信するなど選考過程の効率化を図りました。

＜受賞者＞ 宮城島 進也 氏（国立遺伝学研究所 遺伝形質研究系教授）
 ＜受賞研究＞ 「細胞内共生による光合成生物の成立機構」

◇募集期間：令和4年6月1日（水）～9月30日（金）
 ◇推薦依頼先：226か所（内訳：学会54、研究所22、大学122、過去受賞者28名）
 ◇推薦数：20件

イ 第30回木原記念財団学術賞贈呈式の実施

令和3年度に実施した「第30回木原記念財団学術賞」の贈呈式を、横浜市立大学木原生物学研究所において開催しました。贈呈式の後、木原記念室を見学し木原均博士のご研究内容やお人柄などをご紹介します。



◇開催日：令和4年6月1日（水）
 ◇会場：横浜市立大学木原生物学研究所
 ※ 感染症予防の観点から、財団関係者のみで贈呈式を行いました。

ウ 第30回木原記念財団学術賞記念講演会の実施及び30周年記念誌の配布

令和3年度の受賞記念として、オンライン形式にて講演会を開催しました。受賞者及び木原均博士ゆかりの横浜市立大学木原生物学研究所の所長であり、第21回学術賞の受賞者でもある木下哲博士に、「木原記念室の魅力」をテーマにご講演いただきました。また、完成した30周年記念誌をホームページで公開すると共に、各所に配布しました。

- ◇開催日：令和4年11月8日（火）14:00～16:00
- ◇会場：オンライン
- ◇プログラム：
 - ・京都先端科学大学バイオ環境学部学部長 福田 裕穂氏
 - ・第30回受賞者 理化学研究所 杉本 慶子氏
タイトル：植物の器官形成を司る分子機構の解明
 - ・記念講演 横浜市立大学木原生物学研究所長 木下 哲氏
タイトル：木原記念室の魅力～木原先生のご研究と私の接点～
 - ・常務理事 鈴木 榮一郎
タイトル：木原記念学術賞のご案内
- ◇参加者：144名



2 知識普及啓発事業

(1) 木原記念こども科学賞【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

身近な動物や植物に親しむことで、次代を担うこどもたちの科学の芽を育むことを目的として「第30回木原記念こども科学賞」を実施しました。また、今回は30周年であることから、横浜市立大学木原生物学研究所長の木下哲博士、及び東京海洋大学客員教授の“さかなクン”による記念講演会を行いました。

神奈川県内の小・中学生を対象として、生きものに関する観察、調査、実験等の作品を募集した結果、240作品（53校・37個人）の応募をいただき、主に小中学校の教員で構成される選考委員会による選考を経て、26作品の入選が決定し表彰式を開催しました。昨年度に引き続き今年度も地域の企業、バイオ関連企業、研究者等から寄附をいただき、本事業の運営（作品集の印刷、会場費等）に活用させていただきました。30周年記念講演会では、一般公募により神奈川県内の小学生および保護者約200名の参加があり、講師の先生方から植物や海の生き物の不思議、環境問題等について楽しく学ぶことができました。

受賞作品や講評をまとめた作品集を財団のホームページに掲載しています。

《募集概要》

- ◇期間：令和4年7月1日（金）～9月30日（金）
- ◇後援：〔教育委員会〕神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横浜市教育委員会
〔研究機関〕横浜市立大学木原生物学研究所、海洋研究開発機構
〔企業〕株式会社神奈川新聞社、株式会社横浜銀行、横浜信用金庫
- ◇寄附：横浜市内企業等7社、個人12名
- ◇募集先：神奈川県内 全小・中学校
- ◇応募数：240作品（小学校低学年91、小学校高学年95、中学校54）

《選考結果》

	最優秀賞	優秀賞	努力賞	神奈川新聞社賞
小学校低学年の部	2	3	3	1
小学校高学年の部	1	3	4	1
中学校の部	2	2	3	1

第一部 表彰式



《表彰式・記念講演会概要》

◇開催日

令和4年12月11日（日）

◇会場

産業貿易センター9F
横浜シンボジア

◇次第

9時30分～11時 表彰式

13時～16時 記念講演会

第二部 記念講演会



さかなクン イラスト集



3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信しました。令和4年度は、学術賞の30周年記念誌の配布、こども科学賞の30周年記念講演を実施し、広く周知活動を行いました。

Ⅱ 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

(事業費支出 46 百万円)

1 共同研究開発事業等

(1) 共同研究開発の創出・推進【区分：相談・助言】

神奈川県域に立地するライフサイエンス分野の企業及び大学等研究機関が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援しました。特に、研究助成した大学の研究テーマを企業に橋渡し、共同研究を創出しました。

(2) Go-tech事業【区分：技術開発・研究開発】

ものづくり基盤技術を活用した高度なサービスに関する研究開発や試作品開発等の取り組みを支援し、中小企業のものづくり基盤技術及びサービスの高度化を通じて、イノベーションによる我が国製造業の国際競争力の強化を図ることを目的とする補助金を活用し、中小企業者が研究機関と連携して行う、事業化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発及び販路開拓への取り組みを支援しました。

当該研究は、平成28～30年度に実施したサポイン事業（関東経済産業局 委託事業）により事業化している株式会社レナテックのメタロ・バランス検査（がんリスクスクリーニング検査）に用いた測定技術を応用し、血漿の金属元素測定による認知症及び血液がんリスク診断技術の開発を目的としています。初年度は、12月～2月の3カ月という短い研究期間でしたが、計画以上のボランティアから採血を行うことができ、測定データのみでなく次年度の研究を進めるための処理の効率化等のノウハウも得られました。財団は事業管理機関として、補助金の用途や証憑のまとめ方等を指導し、当該研究を支援しました。

事業名称：中小企業経営支援等対策費補助金（成長型中小企業等研究開発支援事業）

研究テーマ：血漿の金属元素測定による認知症及び血液がんリスク診断技術の開発

補助元：経済産業省関東経済産業局

補助金額：31,083,376円（内、間接補助金額29,969,986円）

研究機関：株式会社レナテック、大阪精神医療センター、大阪国際がんセンター

2 研究開発等助成事業

(1) LIP. 横浜トライアル助成事業【区分：助成（応募型）】

中小・ベンチャー企業や大学等研究機関の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成しました。また、助成対象となる企業等の探索から申請書作成支援、助成金執行管理に係る支援を行いました。

【名称】 LIP. 横浜トライアル助成事業

【助成率】 10/10 以内

【助成限度額】 中小企業 200 万円 大学等 100 万円

【実施結果】 採択件数 11 件（中小企業 4 件、大学等 7 件）

【交付額】 13,135,046 円

交付決定企業・団体 (11 件)

	企業・団体名	事業計画の名称
1	公立大学法人 横浜市立大学	肺実質の弾性計測のための B ラインエラストグラフィ法の開発
2	公立大学法人 横浜市立大学	慢性硬膜下血腫の革新的非手術治療の開発：血腫発生増大メカニズムの概念実証
3	株式会社 SOXAI	非侵襲血中糖化ヘモグロビン濃度モニターを搭載したスマートリングの開発
4	地方独立行政法人神奈川県立病院 機構 神奈川県立こども医療センター	尿のリキッドバイオプシーによる小児神経芽腫の低侵襲性の診断法の開発
5	地方独立行政法人神奈川県立病院 機構 神奈川県立こども医療センター	早産児の神経学的発達予測指標の確立
6	UNTRACKED 株式会社	世界初の転倒予防トータルソリューションにおける、テーラーメイド型転倒予防体操の開発
7	公立大学法人 横浜市立大学	子宮筋腫の遺伝子変異を同定する非侵襲的バイオマーカーの開発

8	株式会社 ALAN	IoT バイクによる神経難病に特化した在宅リハビリティシステムの開発
9	学校法人聖マリアンナ医科大学	AI 技術を活用した自動気管挿管装置展開事業
10	公立大学法人 横浜市立大学	腫瘍由来血中遊離遺伝子 (ct-DNA) のバイオマーカー能の検証と、ct-DNA 解析による薬剤耐性化機序の解明
11	株式会社セルフリースサイエンス	低分子化合物と結合するタンパク質を探索できるプロテインアレイ技術の開発

(2) 小児疾患研究助成事業（クラウドファンディング）

これまで研究開発資金を獲得することが困難であった領域の課題解決にも貢献できるよう、小児疾患研究分野における新たなファンドレイジングについて募集の方法や研究テーマの採択方法等の検討を進めました。

Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(事業費支出 36 百万円)

1 事業化支援

(1) 横浜ライフイノベーションプラットフォーム (LIP. 横浜) の推進

【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

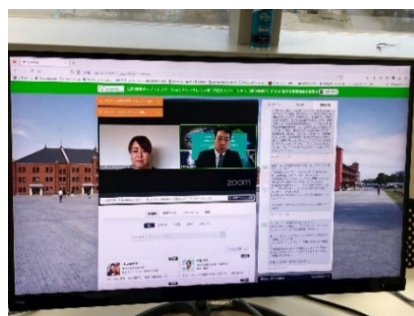
「LIP. 横浜」補助事業の一環として、横浜市内のライフサイエンス系企業・研究機関に対する以下のような支援を通じ、研究開発を推進しました。

ア LIP. YOKOHAMA BIBLIO の運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネットワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す、物理的な「支援の場」(LIP. YOKOHAMA BIBLIO) を運営しました。

セミナーはオンラインで5回開催し、延べ429人の参加者を集めました。

- ◇訪問人数：延べ 12 名
 - ◇相談件数：延べ 9 件
 - ◇セミナー開催：5 回
 - ◇セミナー参加者（延べ）：429 名
 - セミナータイトル※抜粋
 - ・「2022 年度 LIP. 横浜トライアル助成金説明会」
 - ・「RDD2022 公認開催 LIP.YOKOHAMA BIBLIO セミナー
- 希少疾患領域での事業の可能性を考える～事例から学ぶ、社会貢献×ビジネスは成り立つのか～」
- ・「LIP.YOKOHAMA BIBLIO セミナー展示会出展成果を最大化するために～「必要な準備」を考え「今できる準備」をやってみる～」
 - ・「LIP.Yokohama BIBLIO セミナー
- Lifescience Spotlight in クロスイノベーションカンファレンス
- ・「LIP. 横浜 販路開拓セミナー ～スタートアップにおける営業のはじめかた～」



ビブリオセミナーの配信

イ クロスイノベーションカンファレンス

ライフサイエンスやヘルスケア分野での新規事業を検討する異分野の大企業と、市内中小・ベンチャー企業等とのマッチング・個別商談会を開催しました。

- ◇タイトル：LIP. 横浜オープンイノベーションカンファレンスⅧ ～クロスイノベーション（異分野融合）による 新たな事業機会の創出を目指して～
- ◇開催日時：令和 5 年 1 月 25 日（水）～2 月 8 日（水）10 時～17 時
- ◇会場：オンライン（EventHub プラットフォーム）
- ◇参加者：大企業 8 社、市内大学 7 機関、中小・ベンチャー企業 18 社
- ◇来場者数：394 名
- ◇マッチング件数：201 件

ウ LIP. 横浜トライアル助成事業（再掲）

市内企業や大学等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成する「LIP. 横浜トライアル助成事業」について募集・選定を行い、計11件について交付を決定しました。

「世界初の転倒予防トータルソリューションにおける、テーラーメイド型転倒予防体操の開発」の成果としてサービス開発が進展し、上市に向けて大きく進展、「低分子化合物と結合するタンパク質を探索できるプロテインアレイ技術の開発」の成果として特許出願をするなど、市内中小企業等による開発の成果につながっています。

- ◇助成金名称：LIP. 横浜トライアル助成事業
- ◇対象者
横浜市内に立地する中小企業、大学等研究機関、病院など
- ◇対象事業
健康・医療分野の基礎研究成果や臨床ニーズ等の実用化に向けた産学連携事業の推進につながる事業
 - ・研究成果やアイデアなどを具体化する部品・製品・ソフトウェアの開発や試作品の開発
 - ・研究成果やアイデアに基づく仮説を検証し、次の研究ステップに進むために必要となるデータ等の取得
- ◇助成率 対象経費の 10/10 以内
- ◇助成限度額 中小企業 200 万円/件 大学等 100 万円/件
- ◇助成対象期間 交付決定日から令和 5 年 2 月末日

（２）横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）デジタルヘルスケア事業の推進

「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP. 横浜）」において、市内中小企業等のヘルスケアに関連するビジネス機会の創出及び研究開発の実用化に向け、産業動向や学術的な情報を収集、提供することにより、ヘルスケア関連領域への新規参入やビジネスアイデアの創出を促し、事業化を支援するための事業を実施しました。

ア ヘルスケア関連分野でビジネスを行う企業同士のマッチングイベントの開催

市内のデジタルヘルスケア関連の産業活性化へつなげるため、市内中小・ベンチャー企業のシーズ、市内大手企業のニーズを発表し、それぞれ聴衆から提案を募り、マッチングを促進するオンラインイベント「デジタルヘルスマッチングカンファレンス 2022inYOKOHAMA」を開催しました。

イベント名称：「デジタルヘルスマッチングカンファレンス 2022inYOKOHAMA」

開催日時：令和4年11月15日

参加人数：200名

提案数：33件

マッチング数：9件

イ 専門家コミッティによる製品アイデア、ビジネスモデルに対する評価助言

デジタルヘルスケア領域で事業を展開する市内企業へ「製品・サービスの上市」のための助言を行う事ができる人材を専門家コミッティとして組織しました。また、専門家コミッティへ市内企業が製品アイデア、ビジネスモデルに対する評価助言を求める場を7月より毎月1回開催しました。

開催回数：7回

開催日時：毎月最終木曜日

相談企業数：12社

(Loovic 株式会社、Medvigilance 株式会社、マクセル株式会社、株式会社ファンケル株式会社 HealthCareGate、三菱ケミカル株式会社、株式会社 UNTRACKED、株式会社 Temari 株式会社 ALAN、三菱電機株式会社、株式会社 JVC ケンウッド、株式会社 HNS)

ウ セミナー、勉強会、交流会等の開催

デジタルヘルスケアの市場概況・規制をテーマにした「デジタル×ヘルスケア デジタルで加速するヘルスケア産業のいま。」とデジタルヘルスケアマーケティング・広告をテーマにした「デジタルヘルスマーケティングのいろは」の2回のセミナーを開催しました。

【セミナー①】

「デジタル×ヘルスケア デジタルで加速するヘルスケア産業のいま。」

開催日時：令和4年7月14日

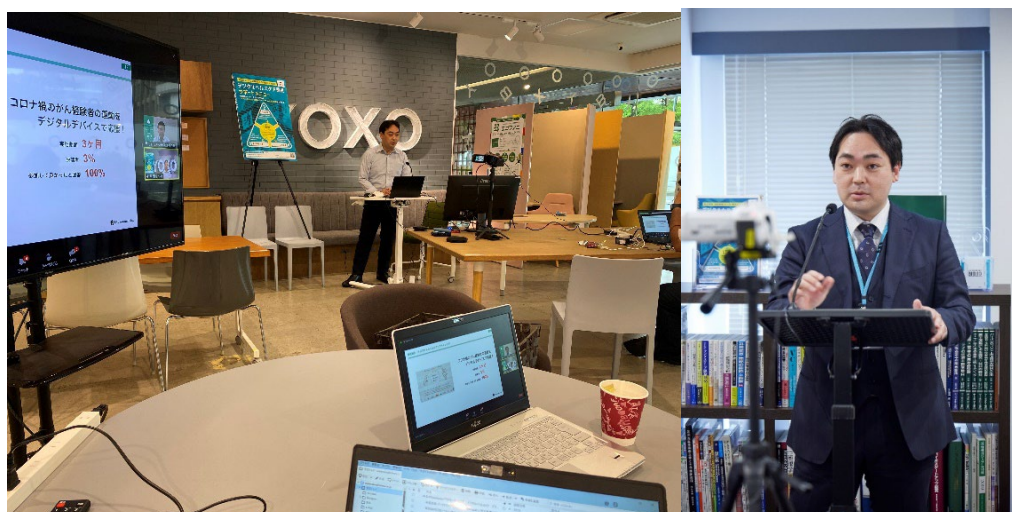
参加人数：344名

【セミナー②】

「デジタルヘルスマーケティングのいろは」

開催日時：令和5年2月21日

参加人数：80名



エ 実証実験に係る調査・データ等の購入

デジタルヘルスケア領域への市内中小企業の参入を支援することを目的として、市内企業が利用できる電子書籍検索サービス「メディカルオンライン」を導入しました。

デジタルヘルスケア領域のベンチャー中小企業の動向を把握し、既に実施されている実証実験等のスキームを調査するため「2022年版ヘルスケアベンチャーの現状と展望」を購入しました。

(3) 市内ベンチャー中小企業のニーズ・シーズ紹介

ア 技術紹介シートの作成

LIP. 横浜会員の中小企業・スタートアップに企業の独自性・競争優位性のある製品や技術についてヒアリングを行い、情報を整理しました。

技術紹介シート作成企業

サクラテック株式会社	非接触バイタル(心拍・呼吸・体動)センサー
株式会社エムアイストーリー	首のセルフケア用吊り枕 “ハンモックピロー”
イチバンライフ株式会社	老化・若返り研究から生まれた美容・健康長寿製品
株式会社 Temari	子供向け歯磨き支援ツール「わくピカ☆オーラルケア」
株式会社 ALAN	パーキンソン病患者向け運動機能評価システム

技術 非接触バイタル(心拍・呼吸・体動)センサー

できること
レーザーを用いて非接触で生体の位置・動き・振動（心拍・呼吸等）を計測する事ができます。

概要
当社が開発したレーザー心拍・呼吸センサー「miRadar8Handy」は、非接触で心拍・呼吸・体動などの生体情報を検出できる最先端の小型携帯型装置です。非接触センサーとよく利用されているカメラセンサーとは異なり、計測技術にはレーザーも用いられており、リアルタイムで複数対象の心拍・呼吸・動きの計測を可能にしました。また、従来製品と比較して格段に小型化する事に成功しており、持ち運びする事が可能です。

強み・独自性

- ・非接触で、複数人のバイタル情報(心拍・呼吸・体動)を同時計測できます。
- ・人の動きも追跡すると同時にバイタル情報も計測する、トラッキング機能があります。
- ・正確な計測を補正しながら、心拍・呼吸・体動などの位置低号を分類検出することが可能です。
- ・複数の対象物も同時計測できます。
- ・持ち運びが可能なサイズです。

特許画像







応用例

- ・介護・看護・・・日々の健康状態モニタリング(24時間365日)
- ・自宅療養・・・療養中の確認モニタリング
- ・自宅監視・・・高齢者の健康状態モニタリング
- ・ウェアラブル・ウェアラブル・・・体の状態チェック
- ・ヘルス・・・入居中の状態監視

これまでの実績・特許情報

- ・特許第7001244号「非接触型生体情報検出装置」
- ・特許第7006441号「非接触型生体情報検出装置、運動状態モニター装置、入居者スキャンシステム、及び装置用ヘルスケアシステム」PCT/JP2021/037446

今後の開発の方向性・現在の課題

要の物の中での検出、保健施設等での複数同時呼吸の検出システム等への展開も可能と考えています。また、生産数の増加によってコストダウンができると考えています。

開発者の強いパートナーに求めたいこと

【特に想定するパートナーとの連携方法】

- ☑ 製品の販売
- ☑ 技術・サービスの提供
- ☑ 新機種の共同開発

図表を添付します。

会社概要・担当情報

社名	サカタテック株式会社				
事業概要	ヘルスケア・セキュリティ・サービス・オートマテシジョン事業				
住所	神奈川県横浜市港北区新横浜3-2-6				
資本金	1000万円	増資状況	増資あり	従業員数	20名
設立年	2008年	URL	https://sakuratech.jp		

代表取締役
源井 文明
045-548-9611
sakai@sakuratech.jp

技術紹介シートサンプル

イ ニーズの収集と紹介コンテンツの作成

LIP、横浜の協力機関にニーズについてヒアリングを行い、情報を整理しました。

訪問先企業	訪問日
堺化学工業株式会社	6月20日
サンスター株式会社	7月1日
株式会社 JVC ケンウッド	7月6日
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス	7月7日
株式会社日本触媒	7月7日
京セラ株式会社	7月20日
パラマウントベッド株式会社	7月27日
三菱ガス化学株式会社	7月28日
JFE エンジニアリング株式会社	8月1日
株式会社ディー・エヌ・エー	8月4日
株式会社ファンケル	8月9日
株式会社 IHI	8月10日
関東化学株式会社	9月6日

ウ ニーズ紹介

大手企業等のニーズを収集して提供している企業のサービスを活用し、毎週ニーズ情報を収集し、LIP 横浜会員へ情報提供しました。その結果、大企業のニーズに対して株式会社日新、株式会社ファルネックス、アフォードセンス株式会社の3社より提案資料作成支援の依頼があり、提案資料作成を支援しました。

[illegible]

紹介コンテンツサンプル

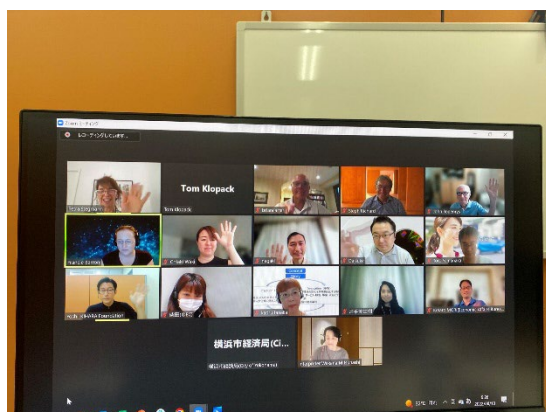
(4)「コネクト」メンタリングプログラム運営支援

米国サンディエゴを中心に活動する起業家支援組織「コネクト」と連携して横浜市が実施する、横浜市内中小・ベンチャー企業等に対するメンタリングプログラムの運営に協力し、当該プログラムを通して中小企業等の外部資金獲得に向けたプレゼンテーション力向上等を支援しました。

横浜市内企業2社の、約3か月にわたる「コネクト」によるメンタリング及びオンラインピッチイベントに伴走しました。

◇コネクト

米国サンディエゴにおいて 3,000 社以上のスタートアップ支援実績を持つ起業家支援組織



メンタリングプログラムの様子



(5) 個別支援等

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施しました。

マッチングを行った294件中の11件と助成対象となった11件の計22件についてプロジェクト創出を支援し、大学の研究促進や産業化支援、ベンチャー企業の事業促進等の成果につなげました。

◇個別相談支援件数：243 件
◇プロジェクト件数：22 件

◇マッチング件数：294 件

2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）

(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する各種情報やセミナー等の情報を発信しました。

(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営【区分：該当なし】

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク内の企業、全国のアカデミア、バイオ産業支援機関などの連携体であるBVAの中核機関及び事務局として、メンバー同士の交流の場（定例会）や外部講師を招いた勉強の場（勉強会）を提供するとともに、各種相談や公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなど事業や研究開発の発展につながる支援を行いました。

- ◇会員数（令和5年3月末）：108社・機関（対前年度比19増）
- ◇主な取組：各種相談や公的資金に関する情報提供、企業間連携のコーディネートなど事業発展につながる支援や定例会・勉強会の開催（3回）、セミナー開催（8回）、マッチングカンファレンス（2回）、研究会（8回）など

3 出展支援・広報

（1）BioJapan 2022 出展支援【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言】

域内に立地する中小企業の出展や販路拡大等を支援するため、横浜市、川崎市と連携し、横浜市内企業等で構成するパビリオンを設け、研究開発用ツールや受託サービスに関する技術の情報発信や商談等を支援しました。

コロナ禍が明けきらない中での開催となりましたが、接触を回避するためのパビリオン導線や、ワークスペースの確保など、工夫を凝らしたパビリオンを設計し、例年と同程度数の企業の参加を支援し、パビリオン運営を行いました。

- ◇開催日時：令和4年10月12日（水）～14日（金）
- ◇会場：パシフィコ横浜
- ◇来場者数：15,813名（主催者発表）
- ◇パビリオン出展：30社・機関（うち横浜市内企業・団体12）

BioJapan 2022 の様子



4 クラスター連携事業

(1) クラスター連携【区分：該当なし】

ライフサイエンス資源の発掘や育成に地域で取り組む公益財団法人等の支援機関に声かけを行い、各地域の支援内容・成功事例等の情報共有や、地域を超えた共同研究・事業連携等の創出に向けた意見交換などを行う場を設けました。

◇開催：2回

◇日時：第1回 令和4年6月21日（火）、第2回 令和5年1月31日（火）

◇場所：第1、2回とも オンライン

◇参加団体（50音順）：

アグリオープンイノベーション機構、沖縄科学技術振興センター、
かずさDNA研究所、神奈川産業振興センター、川崎市産業振興財団、
木原記念横浜生命科学振興財団、久留米リサーチ・パーク、東北ライフサイエンス・インスツルメンツ・クラスター、とっとりバイオフィロンティア、名古屋産業科学研究所 中部TLO、
ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター、
北海道科学技術総合振興センター ノーステック財団、
マリンオープンイノベーション機構、やまなし産業支援機構、横浜企業経営支援財団

計 15 機関

IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営

1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業 【区分：施設の貸与】

（事業費支出 161百万円）

バイオ産業集積の拠点として、横浜バイオ産業センター（YBIC）の貸室貸与により、バイオ関連企業や研究機関の研究開発を支援しました。令和4年度末現在で入居率100%を維持しています。

運営にあたっては、玄関へのアルコールの設置や、会議室や共用部におけるアルコール消毒の徹底など、コロナ対策を実施しました。また、防災訓練等を実施し、火災時の全館避難の訓練を行うなど、良好な研究環境維持に努めました。

YBICは建設から10年以上が経過しているため、経年劣化に対応する修繕改修等を計画的に実施しました。

- ◇安全管理協議会： 令和4年10月4日（火）開催
- ◇防災訓練： 令和4年10月18日（火）実施
- ◇令和4年度に実施した主な設備補修：経年劣化による空調機モーター、ファンベアリング交換、屋外区画線補修の実施



YBIC 外観

V 理事会・評議員会・監査

1 理事会

理事会は、Web および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回理事会 令和3年度決算他 (令和4年6月9日 Web 開催)
- (2) 第2回理事会 補正予算他 (決議の省略 令和4年10月27日提案 31日決議)
- (3) 第3回理事会 令和5年度予算他 (令和5年3月23日 Web 開催)

2 評議員会

評議員会は Web および決議の省略により開催しました。

- (1) 第1回評議員会 令和3年度決算他 (令和4年6月29日 Web 開催)
- (2) 第2回評議員会 理事の選任 (決議の省略 令和5年3月27日提案 未決議)

3 監査

令和3年度決算について、令和4年5月23日、5月25日、5月30日に、監事により往査が実施され、6月9日の理事会で、事業報告書並びに財務諸表は適正であると認めること、理事の職務執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失がないと認める旨、監査報告がありました。

VI 事務局

昨年に引き続き国等の要請に従い、在宅勤務を継続するとともに、職員各々が感染予防に努めました。

さらに、全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施し、情報セキュリティ対策を推進しました。

また、理事長の諮問委員会として財団が果たすべき役割の検討を目的とした「将来構想検討委員会」を設置し、令和4年度は委員会を3回開催し、意見交換しました。引き続き、中期経営計画の策定に向けて委員会を開催します。